

刊行の辞

理事長 山崎 吉朗

「英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にするとともに、学習指導要領の改訂に向けて、外国語教育における指標形式の目標設定を踏まえたカリキュラム研究、研修、教材開発などの取組について支援することが必要である」

新しい学習指導要領に向けた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」の「英語以外の外国語教育の改善・充実」の中に上記の文言が記されました。ここで重要だと思われるのは、「英語以外の外国語教育の必要性」が明記されるとともに、「支援」という言葉が盛り込まれたことです。その結果、昨年度まで「英語教育強化地域拠点事業」という名の下で実施されていた事業が、装いを新たに「外国語教育強化地域拠点事業」が平成29年度からスタートすることになりました。英語教育関連事業25件とは別に、多言語教育分野で3件が採択されます。

昨年 JACTFL が中心となって進めてきた「声をあげる」動きが現実の形として文部科学省(以下、文科省)の外国語教育政策に多少なりとも盛り込まれたことは大きな喜びです。活動の詳細については、JACTFL のほか、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の学会や研究会等から文科省に要望書を出した経緯を記し、それらの内容を掲載した報告「変革の兆し」(本書169～174頁)をご覧ください。

バランスを欠いた英語一辺倒の現状を変え、日本社会の中で豊かで多様な外国語教育(外国語としての日本語教育を含む)を普及していくことが JACTFL 設立の最大の目的の一つです。2012年12月3日に産声をあげた JACTFL は5年目を迎えました。会員数も200名を超え、順調に発展しています。設立10周年を目指して、さらにこれからの5年間、JACTFL の事業内容の充実を図るとともに、日本の外国語教育の発展のために引き続き鋭意努力していく所存です。

発足と同時に発行を開始した研究会誌も第4号となりました。2017年3月12日には第5回目のシンポジウム「外国語教育の未来を拓く:つながり始めた多言語・複言語教育」を上智大学で行います。日本ではまだまだグローバル化=英語化という偏った図式の中で捉えられがちですが、グローバル世界はもっと複雑で多様であることを正しく認識する必要があります。もちろん英語の存在は言うまでもなく非常に大切です。その上で、JACTFL は均衡の取れた豊かな外国語教育の推進・普及を目指します。その

意味で、JACTFL の果たす役割と期待の大きさを理解しながら、今後も、文科省の外国語教育政策を決して傍観するのではなく、日本の外国語教育の未来を拓くためにむしろ肯定的な意味で積極的に関わっていきたいと考えています。

ここで JACTFL の使命、すなわち、目的と事業内容を改めて確認しておきたいと思えます。

まず、定款第 3 条には、以下のように記されています。

「当法人は、あらゆる言語、教育段階の垣根を超えて外国語教育関係者が連携・協力して、多言語多文化が共生するグローバル社会に対応する多様な外国語教育を推進することを通じて、我が国における外国語教育及び外国語学習の質的向上と普及を図るとともに、21 世紀を生き抜く若い世代の育成と我が国の学術振興及び諸外国との相互理解に寄与することを目的とする」

そして、事業内容として定款第 4 条に次の 6 項目を掲げています。

- (1) 多様な外国語教育関係者や諸団体との連携・協力
- (2) 多様な外国語教育に関する啓蒙と提言
- (3) 多様な外国語教育に関する研究・調査・研修
- (4) 多様な外国語教育に関する環境整備
- (5) 多様な外国語教育に関する研究誌・報告書・資料等の刊行
- (6) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

上記の目的と事業内容を常に念頭に置きながら、決してぶれることなく、会員の皆様とともに JACTFL の活動を展開して参る所存です。

2016 年度の会誌『複言語・多言語教育研究』第 4 号には、特別寄稿 1 本、論考 7 本、報告 3 本、エッセイ 1 本、昨年度のシンポジウム報告が掲載され、昨年にも増して充実しています。すべての寄稿者の皆様に感謝致します。特に巻頭の特別寄稿論文を寄せて下さった森住衛先生に対して、心から深謝申し上げます。昨年シンポジウムでの森住先生の基調講演をさらに発展させたもので、ご自身の外国語教育に関するご研究の集大成とも言えるべき内容です。また、ご多忙の中、フランス語学習経験者としてのエッセイを載せて頂いた三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社参与・景気循環研究所長の嶋中雄二氏にも衷心より厚く御礼を申し上げます。経済界で活躍される嶋中氏による若き院生時代の思い出を綴られたエッセイで、本当に示唆に富んだ素晴らしい内

容になっています。本会誌の内容に瑞々しい彩りを添えていただきました。

昨年来、英語はもとより、多様な外国語教育を推進していくために、文科省など教育政策の根幹を担う組織に JACTFL としてのメッセージを届けてきました。関係部署のステークホルダーたちに丁寧かつ粘り強く説明を重ね、率直な意見交換を行ってきた成果が、冒頭での答申に繋がったと考えています。

創刊号で、「簡単な道ではないが、さまざまな外国語教育関係者が手を組み、世論を作っていくことは不可能ではない。ともかく一步一步進む。この会誌第 1 号もその一歩だと信じている」と書きました。第 4 号でもまったく同じ思いを抱いています。これから充実した研究会誌を毎年定期的に滞ることなく刊行していきたいと思えます。一步一步積み上げていきます。

最後に、会誌に広告を掲載するようになって 3 年目ですが、当機構発足から 5 年目であり、財政基盤もまだ強固とは言えない JACTFL にとって大変ありがたいことです。これは、ある賛助会員の提案で始めたものです。企業的な発想も日本の外国語教育の変革には必要です。広告掲載各社及び賛助会員の皆様のご支援が、この研究会誌のみならず、JACTFL の活動を財政面で大きく支えて下さっています。この場を借りて、心から深く御礼・感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

(一般財団法人日本私学教育研究所)